

受け継がれる伝統の技 和紙の紙漉き

◆粟井小学校全校児童が紙漉き体験

【二月十五、十六、十九日】



6年生4人(卒業証書)



4,5年生8人(修了証書)



1,2,3年生5人(修了証書)



NHKテレビインタビュー



指導者:和田さん、山中さん

粟井小学校全校児童17名が3日間に分かれて「紙漉き」をしました。6年生は卒業証書、他学年は修了証書になります。最初は緊張気味で動作もぎこちなく不安そうでしたが、なれるに従い楽しそうに紙漉きに挑んでいました。粟井の地で昔から行われていた産業を今に伝える伝統の技「紙漉き」。後継者は、和田一成さんと山中一之さんです。赤星さんを加え、これからさらなる挑戦が始まります。「期待下さい」。

ソフトバレーボール大会 【二月一日】



今年最初のスポーツイベントが行われ、栗井中のチームが圧倒的な強さで優勝。来年も統合に負けず開催されます。スポーツも栗井の伝統です。

土曜日 午後9時より
・毎週5回連続放送。

NHK
テレビで放映中

限界集落
株式会社
どんと来い、
TPP。10万部

移住定住

粟井村に来て思うこと

深まる秋。夕映えの里に、ぼつりと行む柿の木は、葉を落とし、僅かばかりに残る実が、間近に迫る冬の到来を知らせている。里山の連なり。風に揺らぎ、形を変えながらのぼりゆく焚き火の煙は、とても美しく、郷愁を誘う。目の前に広がる、この上ない風景は、幼ない頃の僕と向き合ってきた、だんだんと、ぼやけていた淡い記憶も、鮮やかに蘇ってくる。そういえば、小学生の頃、ハマって作っていた影絵の題材は、きまってる、こんな景色ばかりだった。古栗の街は移る、軒を連ねる家々の表札は、聞き覚えのない名字ばかり。すれ違う、見覚えのない人々は、言葉も、希薄な人間関係に「ここは、僕の生まれ故郷なのか。」「もどかしく思っていた。」「気持ちに霞がかっていた、あの日々から数年、僕等は、今、栗井で生きています。人々は皆に「こやかで、何気ない会話の中に、生きる喜びを感じ、早く朝からせつせと働くお年寄りの姿に、積極的な気持ちで湧いてきます。」「住むべき場所は人それぞれで、その良し悪しを否むことは出来ないけれど、僕は栗井で暮らせることを、心から幸せに思っています。時々、運転している窓越しに、流れる風景を見てみると、ふと思いつきがあります。」「ここで、ずっと暮らしてゆくんだったら、少し不思議な気持ちになります。最後に、僕を支えてくれる家族に、そして栗井の方々、宗掛、役所、農協、そして、全ての皆様に、深く感謝すると共に、不末者ではありますが、果敢にこれからの未来も、お付き合い下さい、切にお願い申し上げます。ありがとうございます。」



美作市小野 岩城未来

粟井小学校・幼稚園統合推進協議会・報告 【二月二日】

閉校を間近に控え、最後の「統合推進協議会」が開かれました。協議内容は、以下の通りです。

- ①閉校記念誌編集委員会・・・二月中に栗井小学校で内容等の確認をして頂きます。
- ②PTA統合を考える会・・・二月二十一日にスクールバスに乗り最終確認を行います。
- ③閉校記念式典及び記念行事について、最終案を確認しました。全戸に案内を出します。

●この日で協議会は解散しました。事務会計は四月以降、十月まで粟井自治振興協議会が引き継ぎます。

粟井地区村創りの会 二月、三月、四月の予定

2月20日(金)	粟井福祉ボランティアの会・友愛訪問「弁当」
3月1日(日)	村創りの会・理事会(福祉センター)
3月8日(日)	粟井小学校施設利用説明会
3月15日(日)	粟井地区・清掃活動
3月22日(日)	藻谷浩介氏・講演会(春日座)
4月1日(日)	閉校記念式典
4月8日(日)	粟井地区社会福祉協議会・総会
4月15日(日)	粟井地区管理委員会
4月22日(日)	粟井自治振興協議会・総会
4月29日(日)	美作市粟井スポーツ振興会・総会
5月6日(日)	粟井地区村創りの会・総会
5月13日(日)	粟井地区ウォーキング大会

粟井地区・移住定住促進部の活動にご協力を！

今、粟井地区に移住したいという人が数家族おられます。美作市との協働事業です。これ以上の高齢化を避けるためにもご協力をお願いします。来年度の新規就農者を増やすために、今が最も緊急な時です。

(粟井自治振興協議会：移住定住促進部部長・安東寿夫)

【編集後記】一年が明け、何もかもが急に慌ただしくなってきました。粟井小学校閉校は、粟井自治振興協議会で2年以上かけて準備をし、今や具体的な活動に移ってきました。粟井小学校の閉校と、村創りの会の「共生対流事業」の実質的な終了、そのことに伴う組織の改編。3月の各組織の反省は、4月の総会での活動計画に直結します。活動計画は実行されて初めて有意義なものになります。これから粟井村は益々自主的、自治的活動が求められます。粟井村の将来は、大勢の志士の「互助」の力によって支えられていきます。今まで3年間準備してきたことが生かされる事を願います。